

敷島給食センター見学

子どもたちが毎日食べている給食はどこでつくられているかご存知ですか。敷島地区の小中学校4校で学ぶ児童生徒、約1800食の給食は敷島給食センターでつくられています。6月5日(金)に1年生が給食センターを見学に行きました。私も付き添いましたので、皆さんに給食センターの様子を紹介します。

(1)場所 敷島南小の南側にあります。2階建ての立派な建物です。

(2)出来た時 平成16年に現在の場所に移転、新築しました。それまでは敷島小学校の北側にありました。前の給食センターは昭和48年に作られました。

(3)働いている人の数 現在16人が働いているそうです。

(4)衛生面で気をつけていること

調理する食品でエプロンの色分けをしています。例えば、魚の調理は黒のエプロン。ご飯を扱うときはピンクのエプロンというように。他にも緑のエプロンやブルーのエプロンなどがあります。これは、例えば土の付いた野菜を洗う場合と、洗った野菜を調理する時では、気をつけなければならない事が違うからだそうです。また手洗いでは、指の間、爪の間、手首までを丁寧に洗うそうです。

(5)その他の工夫として

①水道に蛇口がありません

水を出したり、止めたりする蛇口がありません。その代わりに足下にペダルがありそれで水を出します。これは水道の蛇口に触れることで細菌が手に付着するのを防ぐためだそうです。

②料理内容で部屋が区切られています

ご飯を炊く部屋、揚げ物をする部屋、スープを作る部屋など、部屋毎に分かれています。2階の見学場所(会議室兼用になっている)からは、1階の各部屋に分かれ、調理員の方々が一生懸命働いている様子を見ることが出来ました。1年生にとって、その日の給食は特別に美味しかったことでしょう。

私も衛生面に細心の注意が払われ給食が作られている様子を見ることが出来、安心すると共に、給食を作ってくださいの方々への感謝の気持ちを新たにしました。

説明を聞くこども達



調理している様子を見るこども達



辻井伸行さんの快挙に拍手

6月9日(火)の新聞記事をご覧になった方は盲目のピアニスト辻井伸行(20歳)さんがアメリカテキサス州で行われたバン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝した記事をご覧になったことでしょうか。辻井さんは東京都生まれ、生まれつき盲目で幼少期に音楽を始めました。現在は上野学園大に在学中です。

辻井さんがピアノコンクールで優勝したことはテレビでも大きく取り上げていました。伸行さんは、産婦人科医の父親と、アナウンサーの母親という家庭に生まれました。母親は、わが子が全盲という大きな障害を持って生まれたことを悲しみ、伸行さんが赤ちゃんの頃、「この子を殺して私も死のう」と一瞬、死を思ったそうです。その考えを思い止まらせたのは、ご主人からの愛情溢れる温かいことばです。それと共に、伸行さんが見せた特異な才能です。伸行さんは次のような才能を幼少の頃から発揮したそうです。

伸行さんが赤ちゃんの頃、ピアノの調律に見えた方が、調律のため音を出すと、その音の高さに合わせ泣き声を出したそうです。ピアノ調律師は大変驚き「この子は絶対音感を持っているのでは。」と言ったそうです。音楽に興味がありそうだと、いうことで両親はおもちゃのピアノを買ってあげました。しばらくするとこんなことがありました。母親のいつ子さんが口ずさんだ「ジングルベル」の曲をそのおもちゃのピアノですらすらと弾いたのだそうです。伸行さん2歳3ヶ月の時のことです。その姿を見て、「この子は音楽が好きなんだ。」と嬉しく思ったそうです。

テレビでは、父親で産婦人科医の孝さんがインタビューに応え次のようなエピソードを語っていました。

「息子に、『何か願い事が叶うなら、どんなことを願います。』と聞いたことがあります。その時、『一度でいいから目が見えるようになってお母さんの顔が見たい。一度、見たら、もう見えなくなってもいい。』そのことばを聞いたときは、さすがに息子が不憫に思えてなりませんでした。」そう言う孝さんの目には涙が浮かんでいました。この辻井さんの話は私たちに色々なことを教えてくれます。

○どんな人も生きている意義がある。素晴らしい可能性を持っている。

事故等で大きな障害を受けた人は、生きる希望を失ってしまうことがあります。また、生まれてきたわが子に障害があることが分かった時、親は大きなショックを受けます。「どうしてわが家に障害のある子が。それも全盲の子が。いったい何がいけなかったの。」母親のいつ子さんは自分を責め、一時は気が狂わんばかりだったそうです。でも、今では、伸行さんがわが子で良かったと心から思っているそうです。人がこの世に生を受け、生きているということは何らかの意味がある、といえます。「あなたを必要とする人が必ずいる。その人のためにも私たちは命ある限り生き続けることが大切だ」と思うのです。

そして人は、今は自分では気がつかないけど、大きな才能、可能性を持っていることがあります。その素晴らしい才能を道半ばで自ら閉ざしてしまったり、他人により閉ざされたら、残念です。人生が辛くても、どんな時も希望を胸に、自分を大切にし

て生きていきたいものです。(難しいこととは思いますが)

○お互いを思いやる心の大切さ

人は感情の生き物です。夫婦が仲違(なかたが)いするのはそれなりの理由があることでしょう。ドラマに見るような絵に描いたような夫婦は現実にはそんなにあるものではありません。でも、縁あり一緒になったのですから、健やかなときも病める時も、苦しいときも、お互い支え合い、励まし合い、思いやりの心を持ち暮らしていきたいものです。(これも難しいこととは思いますが)